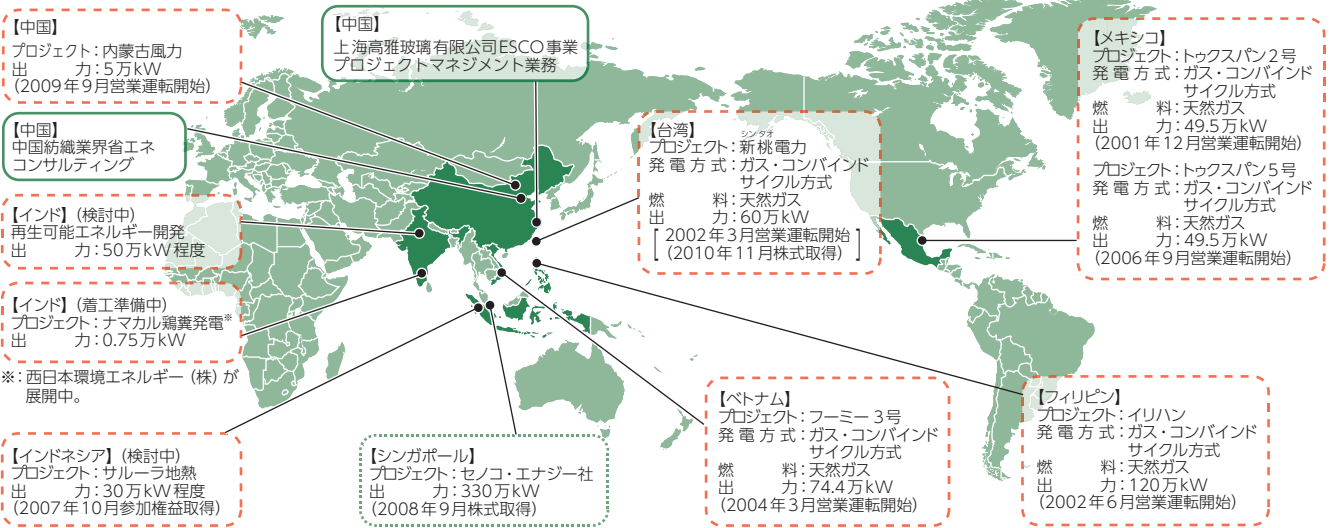


海外での事業展開 (2012年7月末現在)

IPP事業 一般電気事業 環境関連コンサルティング事業 (2011年度実施、契約中案件)



6 CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出抑制

温室効果ガスの排出は、発電時に発生するCO<sub>2</sub>が99%以上を占めますが、その他事業活動に伴って発生するN<sub>2</sub>Oなどの温室効果ガスについても排出抑制に努めています。

● 六フッ化硫黄 (SF<sub>6</sub>)

SF<sub>6</sub>は絶縁性に優れているため電力機器の一部に使用されていますが、機器の点検・撤去にあたっては、真空型回収装置の使用を徹底し、大気中への排出を極力抑制しています。

● メタン (CH<sub>4</sub>)

火力発電所での燃料の未燃焼分として排出されるCH<sub>4</sub>は、排ガス中の濃度が大気中の濃度以下であるため、実質的な排出はありません。

● 一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)

主に火力発電所での燃料の燃焼に伴い発生するN<sub>2</sub>Oは、発電所の利用率により発生量が変動しますが、火力総合熱効率の向上等に取り組むことにより、排出抑制に努めています。

● ハイドロフルオロカーボン (HFC)

空調機器の冷媒等に使用されているHFCは、機器の設置・修理時の漏洩防止、回収・再利用を徹底しており、年ごとの点検・撤去日数による変動はあるものの排出量はごくわずかです。

なお、オゾン層の破壊につながるフロン類(規制対象フロン)を使用している冷凍機器等については、点検・撤去時のフロン回収を徹底するとともに、機器新設時や取替時には、規制対象フロン不使用機器の導入を進めています。

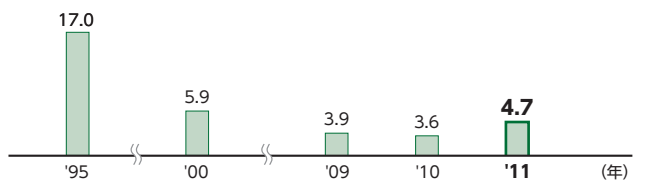
詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報(P2参照) > オゾン層の保護

● パーフフルオロカーボン (PFC)

PFCは一部の変圧器で冷媒及び絶縁体として使用されている例がありますが、当社での使用はありません。

SF<sub>6</sub>排出量

単位: 万トン-CO<sub>2</sub>\*



※: SF<sub>6</sub>ガス重量をSF<sub>6</sub>の温暖化係数(23,900)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

SF<sub>6</sub>ガスの回収実績 (2011年)

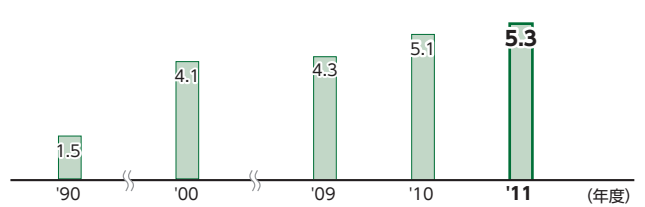
単位: トン (カッコ内は、CO<sub>2</sub>換算量\*)

	取扱いガス量	回収ガス量	回収率
点検時	23.30 (56万トン)	23.14 (55万トン)	99%
撤去時	3.28 (8万トン)	3.26 (8万トン)	99%

※: SF<sub>6</sub>ガス重量をSF<sub>6</sub>の温暖化係数(23,900)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

N<sub>2</sub>O排出量

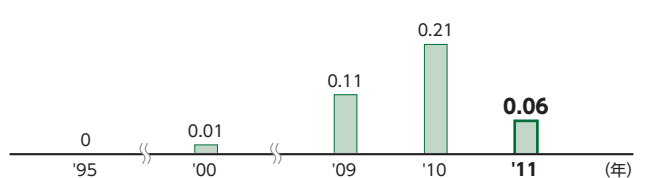
単位: 万トン-CO<sub>2</sub>\*



※: N<sub>2</sub>Oガス重量をN<sub>2</sub>Oの温暖化係数(310)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

HFC排出量

単位: 万トン-CO<sub>2</sub>\*



※: HFCガス重量をHFCの温暖化係数(140~11,700)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

用語集を  
ご覧ください

- ステーキホルダー
- N<sub>2</sub>O (一酸化二窒素)
- HFC (ハイドロフルオロカーボン)
- 温暖化係数
- オゾン層
- SF<sub>6</sub> (六フッ化硫黄)
- フロン
- 規制対象フロン
- PFC (パーフルオロカーボン)
- 再生可能エネルギー
- CH<sub>4</sub> (メタン)
- 熱効率
- コンバインド (サイクル)

☑: 第三者機関による審査を受審したデータ